

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第6号



熊本大学医学部保健学科第7回同窓会総会後記念写真（平成22年7月3日）

目次	同窓会会長あいさつ	1
	保健学教育部長あいさつ	1
	卒業生の寄稿	2
	在校生の寄稿	4
	同窓会総会会議議事録	5
	特別講演	6
	国家試験合格状況	6
	平成21年度卒業生の進路状況	7
	保健学科教員の紹介	7
	同窓会会則・細則	8
	同窓会役員	9
	編集後記	9

平成23年度同窓会総会、特別講演 および懇親会のご案内

平成23年7月2日（土）14時より、第8回保健学科同窓会総会、特別講演ならびに懇親会を開催いたします。場所は熊大医学部保健学科です。是非、皆様のご予定に入れていただきご参加をお待ちしております。

住所変更の場合は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1170（小野高速印刷）

メール:kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

保健学科とともに発展する同窓会

保健学科同窓会会長 **宮里邦子** (熊本大学大学院生命科学研究部環境社会医学部門・看護学講座
熊本大学医学部保健学科・看護学専攻)

保健学科は本年3月に第3期生の卒業生を送り出し、同じく大学院保健学教育部も修士課程の第1期修了生を出しました。本年の4月からは博士後期課程が開設され、大学院は博士前期課程(旧修士課程)・博士後期課程となり、教育・研究体制が整いました。それに伴い、同窓会会員も博士前期課程の院生に続いて、後期課程の院生が加わり、保健学科同窓会は年々発展しています。

保健学科同窓会は、平成16年の第1期生入学時に、保健学科の前身である医療技術短期大学部(専攻科助産学特別専攻を含む)、さらにその前身である医学部附属学校(看護、検査、放射、助産)の各同窓会を統合して発足しました。平成19年度から教育学部特別教科(看護)教員養成課程の同窓会が加わり、熊本大学の中でも有数の活発な同窓会となりました。本年7月3日には第7回保健学科同窓会定期総会を開催いたしました。特別講演では、高次脳機能障がいと向き合いながら、歌手としてひたむきにリハビリに取り組んでいらっしゃる一ノ瀬たけし様の歌と、彼を支えてともに苦難を乗り越えてこられたお父様の純二様に「ゼロからの出発」と題してお話をいただきました。参加者は、お二人の前向きに取り組んでいらっしゃるお姿に心をうたれ、大きな励みをいただきました。また、懇親会では医療施設や教育機関などの第一線で活躍されています先輩と在学生在が交流を深め、10年、20年、30年と知識や技術を積み重ねてきたご経験豊かな先輩諸兄、諸姉から医療人としての思い、使命感、愛や誇りが詰まった貴重なお話をいただきました。これから医療社会に足を踏み出そうとしている在在学生にとりましてたいへん有意義な時間となりました。

平成23年度には同窓会会員名簿第2号の発行をいたします。会員名簿は同窓会のさらなる発展への礎となります。すでにご案内のところでございますが、なにとぞ名簿作成にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

保健学科のさらなる発展 —大学院博士課程設置のご報告—

大学院保健学教育部長 **木原信市** (大学院生命科学研究部環境社会医学部門・看護学講座)

平成16年4月から第一期生を迎え入れて以来、平成22年度現在、3学年が卒業していきました。卒業後は大学院への進学者を若干名除けば殆どが病院、保健所、地域医療等の医療関係施設で頑張っており、本学科の目的が十二分に達成できていることで一安心しております。

保健学科の改組は、平成22年4月から開設された大学院博士課程設置をもって一段落いたしました。これらの改組を契機に保健学科教員の組織体制が一変しましたので、その一端を説明いたします。

① 医学部保健学科

学部学生は従来通り医学部保健学科の所属となります。

② 大学院保健学教育部

大学院前期課程(修士課程)が設置された平成20年4月から独立した学部となりました。

③ 大学院生命科学研究部

大学院後期課程(博士課程)の設置されました22年度の1月から、保健学科の教員はすべて生命科学

研究部に所属することになり、看護系は環境社会医学部門・看護学講座、放射系・検査系は先端生命医療科学部門・医療技術科学講座となりました。

教育環境に関しまして、本館の全面的改修を期待していたところですが、予算の関係で本館の外壁、廊下、壁のみが改修されます。この改修作業で、外観は幾分か綺麗になるであろうと想像しております。

熊本大学の現状といたしまして、全国の国立大学法人大学と同様、極めて厳しい環境のもとに置かれています。社会環境の激変と日本財政の危機的状態の中で、毎年1%の一般管理費の削減（運営費、給与、研究費等）、病院運営交付金の2%減等、本学にとっては毎年4億円削減という甚だ困難な財政条件が設定され、各大学では競争的環境の中、外部資金の獲得の必要性が求められております。さらに国の政権交代を機に財政の厳しさは加速してきております。

保健学科同窓会の皆様には、学生の教育環境のよりよい改善や奨学制度の基金設立等のため、今後とも物心両面でのご支援を宜しくお願い申し上げます。

最後に、熊本大学医学部保健学科同窓会のますますの成長と同窓生の皆様の今後のご発展を心より願って挨拶といたします。



卒業生の寄稿

熊大病院に就職して

熊本大学医学部附属病院

森本 理沙 (保健学科看護学専攻 3期生)

私は現在、熊大附属病院西病棟11階で働いています。就職して5ヶ月が過ぎた今、理想と現実のギャップに驚き悩まされています。

学生のときに実習をさせてもらい、とても楽しく印象に残った病棟だったため希望して就職しました。自分でできるようになったことが少しずつ増えていく一方で、知識もまだほとんどなく、技術面でも自信がないため、できない自分ばかりが気になって不安と焦りでいっぱい、いっぱいになってしまいます。新人看護師は毎日フォローの先輩についてもらい、患者さんの状態の観察、cure・careの実施・記録と一緒に整理をして、観察ポイントや技術面を一つ一つ丁寧に指導してくれます。そんな先輩たちのフォローのおかげで、なんとか日々の業務をやっていくことができています。

いろいろな患者さんを担当させてもらっていますが、命がけで治療をしている患者さんを相手にしているのだと思うと、すごく責任を感じます。きつくてつらくて仕事に行きたくないと思うときもあるけれど、「ありがとう」と患者さんに言われると、とてもうれしくてその言葉に救われます。患者さんにはいつも元気をもらっています。

病棟には私を含め4人の1年生がいるのですが、つらいとき、泣きたいときに一番頼りになるのは、やはり同期の仲間です。出来ないこと、わからないことなど、お互い同じような悩みを持っています。なかなか全員が同じ勤務帯になることはないのですが、廊下やナースステーションでアイコンタクトをとったり、仕事終わりや休日にごはんを一緒に食べる機会を作りながら、悩みや愚痴を言い合ったりしてとても心強い存在です。

私には、学生のときから憧れの先輩がいます。少しでもその先輩に近づけるように、日々努力をしてがんばっていきたいと思います。

同窓生・仲間へ感謝

済生会熊本病院

守部 伸幸 (診療エックス線技師学校 2期生)

熊本大学医学部附属病院を4年前に退職し、現在、済生会熊本病院に勤務しています。随分昔のことですが、大学病院時代は医用画像に関する研究を行っていました。特に山口大学病院から熊大医療技術短期大学部に助手として赴任され、後に九州大学医学部保健学科の教授を歴任後、今年、定年退官を迎えられた1回生の東田さんとは夜遅くまで、ある時は午前様になるまで同窓生ばかりで医用画像に関する実験をしたことを思い出します。大学病院退職前の10年間程の放射線治療に従事していたときは、後輩で放射線治療(放射線治療計測学)を専門とする荒木さん(現、保健学科教授)からは多くのことを教わりました。今の自分が現役で仕事できているのは一緒に研究をしてきた同窓生および諸先輩方のお陰だと感謝しています。同窓生の良き先輩、後輩に恵まれたことは本当に良かったなあと感謝をし、誇りに思っています。また、病める人のために役に立てる放射線技師職になって本当に良かったと痛感しています。私は仕事が好きなので大学病院に勤務していた時から仕事にプラスになるいろいろな物を作ってきました。済生会熊本病院に来てからもいろいろ作っています。自分が研究したものが結果として患者さんのためになるのであれば何でも良いと思っています。アイデアやヒントは現場が宝庫です。同窓生の皆さん頑張ってください。最後になりましたが、同窓生の皆さんの活躍と保健学科同窓会の益々の発展をお祈り致します。

わくわくドキドキの人生

熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学分野

熊谷エツ子 (衛生検査技師学校 1期生)

終戦後まもなく生まれた私は、約65年間、心をとくめかせながら生きてきました。女性が結婚しても働き続けることができる世の中になったこと、働きながら学ぶことができたことが、私のわくわくドキドキの生活を後押ししてくれました。これまで仕事・家事・出産・子育て・勉強・介護と欲張りによくばって生きてきましたが、これらの全てが、わくわくドキドキの源になりました。

高校までは目標がなかったので、自主的に勉強をした記憶がありません。しかし熊本大学医学部附属衛生検査技師学校に入学してからは、衛生検査技師になるために一生懸命勉強しました。同病院中央検査部に在職中には、臨床検査技師の資格を取るだけでなく、出産・育児にも奮闘しました。仕事と子育て大変でしたが、毎日新しい発見があり、大変充実していました。その後、医療技術短期大学部に移り、後輩の育成と研究を行ってきました。保健学科への改組に伴って学士の資格が必要となり、46歳のときに日本大学(通信教育学部)に入学し、50歳のときに熊本大学法医学部博士前期課程に社会人入学をしました。その後、同大学医学部の研究生となり医学博士を取得しました。勉強する過程で興味の対象が広がり、心ときめく機会が増えたような気がします。ときめきの源は無限にあると思いますので、生涯、感動し続けたいものです。

今年度で定年退職しますが、皆様のおかげで楽しく充実した生活を送れたことに大変感謝しています。在職中には、臨床検査技師の役割や魅力を学生さんに伝えるだけでなく、在校生と卒業生の橋渡しをすることを心掛けてきました。これからも衛生検査技師学校1期生であることを誇りにして生きていこうと思っています。そして皆様との出会いを私の貴重な宝物として大切にしていきたいです。

最後になりましたが、保健学科同窓会の発展と皆様の幸せを心から願っています。

在校生の寄稿

保健学科4年間を振り返って

看護学専攻4年 溝上 栄美

入学して4年が経ち、卒業が間近に迫っています。長いようであつという間で凝縮した4年間でした。様々なことに懸命に取り組んだ4年間でしたが、在学中特に印象に残っていることは思春期ピアカウンセリング活動に取り組んだことです。この活動では、高校生と「生」や「性」などについて一緒に考えました。大学生は高校生にとって親や教師よりも年の近い身近な存在であり、悩みを共感することが出来ると思います。私は高校生の気持ちに寄り添って話を聞くことを心掛けています。悩みを話してくれた高校生から「話す前よりすごく楽になった。話せてよかった。ありがとう」と言われ、涙が出るほど嬉しかったこともありました。私は思春期ピアカウンセリング活動を通して、相手の気持ちに寄り添うことの大切さや自分も相手も大切にすることを学びました。

この4年間は同じ志を持つ仲間と勉学に励み、お互いに切磋琢磨し続けた毎日でした。実習中には深夜まで学校に残り友人と学びを深め合い、就職活動中に悩んだ時には「えみの頑張り屋なところが保健師に合っていると思うよ」という友人の言葉が何よりの特効薬となりました。私は4月より高校時代からの夢であった保健師として働くことが決まっています。就職すると今まで以上につらく苦しいことが待っていると思います。そんなとき、大学時代に学んだことを思い出し、4年間同じ学び舎で過ごした仲間たちと支え合い乗り越えていきたいと思えます。

同窓会の講演及び一ノ瀬たけしさんの歌を聴いて

放射線技術科学専攻4年 松尾 健生

今回の講演や演奏を通し、健常者と障がい者の違いは単に身体の機能的な点、それ以上でも以下でもないかと再認識するに至った。

先日、幼少期から共にヴァイオリンを学んでいる盲目の友人がテレビ番組に障がい者のみで構成されたオーケストラの一員として出演している姿を見かけ、後日連絡したことがあった。そのオーケストラを指揮していたのは私が尊敬する音楽家、久石譲氏。彼は番組の中でこう

語っていた。

『私は彼らを特別扱いしません。聴いてくださる方々に、いい音を伝えたいという想いは一緒だからです。そこで妥協することは出来ない』と。

確かに彼は団員に対し終始、厳しい態度で練習やりハールに臨んでいた。私が講演会への参加後に感じた思いは正にこれだと、久石氏の言葉を聞いて腑に落ちた。あの日、一ノ瀬さんが歌う姿から私が感じたものは、純粋に『音』に関してのみであり、そこに健常者や障がい者という概念はなかった。ある目的に向け、人が行動する時、この両者には何の違いも存在しない。しかし、このように捉えることは簡単ではない。斯く言う私も、たまたま一ノ瀬さんと音楽という共通点があったため、そう感じただけであったのかもしれないのであり、常に健常者と障がい者についてこのような認識が一貫しているとは、恥ずかしながら断言することが出来ない。しかし、このような認識を出来る気がついたことが有意義であったし、今後、見識を一貫させていきたいと感じた。

検査技術科学専攻3年次に編入して

検査技術科学専攻4年 麻生 妙美

21年4月、専門学校から熊本大学の3年次へ編入しました。私の通っていた専門学校では卒業後ほとんどの生徒が就職をしますが、私はあえて就職の道は選ばず、大学進学を希望しました。もともと実験や研究に興味があり、知識と技術を深めるために勉強をしたいと考えたからです。編入後は新しい学校生活に戸惑うこともありましたが、多くの先生方にサポートをしていただきながら勉学に励んでいます。特に原虫感染症の研究を進める研究室で、DNAを扱う研究をするうちに、以前は苦手意識のあった遺伝子分野にも興味を持つまでになりました。

専門学校から大学へ編入できたことを、非常に良かったと思っています。専門学校には専門学校なりの、大学には大学なりの長所、短所を発見し、それを実感できたことは、私の人生において非常に価値ある経験です。何事も経験!! これからも、自分から積極的にチャレンジしてみようという気持ちを持ち続けて、勉学・就職へとつなげていきたいと思えます。

第7回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成22年7月3日（土）14:00～14:30

場 所 保健学科C503講義室

出席者数 108名

議 長 増永純夫氏（熊本中央病院検査科）

＜総会式次第＞

開会の辞

同窓会会長挨拶

保健学科教育部長挨拶

議長選出

議事

1. 平成21年度事業及び会計に関する報告

- ① 事業報告
- ② 決算報告
- ③ 監査報告

2. 平成22年度、23年度同窓会役員紹介

3. 平成22年度事業計画（案）

4. 平成22年度予算（案）

5. その他

閉会の辞

【報 告】

14時、和田副会長より開会が告げられ第7回同窓会総会が開会された。

最初に、宮里邦子会長が会を代表して挨拶を行い、続いて木原信市熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、増永純夫氏（熊本中央病院検査科）を総会議長に選出し、議事に従い4項目の議案の審議が行われた。

1. 平成21年度事業報告および会計に関する報告

田中前会長より同窓会ホームページの管理・運営開始（4月～）、保健学科オープンキャンパスへの支援（8月）、熊本大学60周年記念式典参加（11月）、同窓会会報第5号発行（1月）等、1年間の事業が報告された。

会計の終中氏より21年度の会計について決算状況が報告された。保健学科入学生の同窓会会費納入率が例年低いこと、支出のホームページ維持管理費は、今年度、ホームページ更新が少なかったために執行額は安くなっていると報告された。

その後、山本監事より3月25日に行った会計の監査結果について、報告がおこなわれた。



会場風景

＜質疑＞

質問等がなく、採決を行い、出席者の賛成多数で平成21年度事業報告、決算報告ならびに会計監査報告は承認された。

2. 平成22年度事業計画（案）について

宮里会長より、22年度事業計画（案）について説明があり、昨年行った事業に加えて同窓会会員名簿第2号の発刊と、第6号同窓会会報が前年より早く11月発刊予定であることが説明された。



宮里会長挨拶

3. 平成22年度予算（案）について

会計の船間氏より22年度予算（案）について説明があった。

＜質疑＞

(Q) 平成23年に同窓会会員名簿が作成される。その予算は計上されていないが、今年度の予算に入れなくてよいのか。

(A) 出費があるとすれば来年度に発生するので、来年度の予算で計上することになる。

その他の質問等はなく、採決にて、出席者の賛成多数で平成22年度事業計画（案）、平成22年度予算（案）は承認された。

4. その他

その他の追加議事はなかった。

以上で、議案審議がすべて終了し、議長は、「会員一人ひとりが同窓会発展のために協力していきましょう」と挨拶後、降壇した。

最後に、和田副会長より「同窓会は今年度より7月の第一土曜日に変更されているので、今年度の出席者が同期生に呼びかけていただき、来年さらに多くの同窓生が総会に出席されますようにお願いします」と閉会の挨拶があり、14時30分に終了した。

尚、この後、「高次脳機能障がい家族会 ぷらむ熊本」代表の一ノ瀬純二様の講演会と懇親会がおこなわれた。

平成22年7月3日

文責 前田 浩、田中紀美子

特別講演

「ゼロからの出発 —高次脳機能障害と向き合いながら—」

—ノ瀬純二（「高次脳機能障がい家族会 ぶらむ熊本」代表）

突然の心臓発作で18歳の赤ちゃん状態となった長男たけしの病名が「高次脳機能障害」である事に辿り着いたのは発病後7年目の事でした。自宅療法を選択した後、私の妻は24時間常駐の介護士という生活を余儀なくされました。弟妹までの家族全員が受け止めなくてはな



特別講演の一場面
（—ノ瀬純二・たけし様）

らない現実の数々。家族内に二次的障害の危険性を感じながらも、壊れた脳細胞の再生には、当事者の快な気分を持続する事が大切であると知り全員で努力しました。認知症や発達障害との関連性など専門知識も身に付き、病気の出口より健康の入り口探しを大切にしました。無くした機能を悔やむより出来る機能を重視して本人の自発的発想・意欲を後押しする結論が、たけしの歌手活動でした。非難中傷もありましたが、たけしの自立と社会復帰の為に優先順位を並べ変えて、たけしの夢実現を家族の目標としました。家族会・高次脳機能障害「ぶらむ」熊本の沢山の仲間にも支え励まされて来ました。それぞれがオンリーワンのリハビリにチャレンジして回復例を積み重ねて来ました。

医療・介護の専門の方から治るかもしれないという可能性や希望的回復例を伝えていただければ、当事者自身が回復エネルギーを生み出します。たけしの歌手活動が証明しました。人前に出る事自体が最大のリハビリ効果を生み出したのです。妻の出版本「生きている奇跡」は13年間の介護日誌のつもりで出版しましたが、我が家の暴露本でもあります。弟や妹の人生にまで影響を与えた、たけしの発病でしたが、良い家庭を築く為には必要で大切な出来事であったと確信します。命・生きる・家族・すべての事柄で本当に大切なものが何であるかを学ばされ、掴み取る事が出来たと感謝しています。TVでも取り上げて頂きましたが、全国に50万人とも言われる当事者の、暮らしやすい社会を目標にこれからも努力して参ります。

懇親会風景



先輩から後輩へ



—ノ瀬様父子に謝辞を述べる在校生

国家試験合格状況

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格率 （%）	受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格率 （%）
看護師	19	65	65	100.0	51,313	46,342	90.3
	20	65	64	98.5	50,906	45,784	89.9
	21	72	72	100.0	52,883	47,340	89.5
保健師	19	74	70	94.6	11,055	10,066	91.1
	20	77	77	100.0	12,049	11,773	97.7
	21	84	81	96.4	13,048	11,295	86.6
助産師	19	14	13	92.9	1,722	1,690	98.1
	20	17	17	100.0	1,742	1,741	99.9
	21	16	9	56.3	1,901	1,579	83.1
診療放射線技師	19	25	22	88.0	2,444	1,789	73.2
	20	43	34	79.1	2,547	1,896	74.4
	21	39	39	100.0	2,460	1,969	80.0
臨床検査技師	19	27	27	100.0	3,997	2,947	73.7
	20	38	37	97.4	3,701	2,657	71.8
	21	33	32	97.0	4,060	2,753	67.8

平成21年度卒業生の進路状況について

2010. 6. 4現在

看護学専攻（卒業生85名）		
（就職）		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	36
熊本赤十字病院	熊本県	4
済生会熊本病院	熊本県	2
慈恵病院	熊本県	2
熊本市職員	熊本県	2
熊本県職員	熊本県	2
福田病院	熊本県	1
上天草市職員	熊本県	1
宇城市職員	熊本県	1
福岡大学病院	福岡県	6
福岡赤十字病院	福岡県	4
浜の町病院	福岡県	1
九州大学病院	福岡県	1
九州厚生年金病院	福岡県	1
国立病院機構九州がんセンター	福岡県	1
福岡県警察	福岡県	1
長崎大学病院	長崎県	1
済生会長崎病院	長崎県	1
健康保険諫早総合病院	長崎県	1
日本赤十字社長崎原爆病院	長崎県	1
大分赤十字病院	大分県	1
国立病院機構佐賀病院	佐賀県	1
基山町職員	佐賀県	1
三股町職員	宮崎県	1
霧島市職員	鹿児島県	1
南九州市職員	鹿児島県	1
株式会社ジャルエクスプレス	大阪府	1
大阪警察病院	大阪府	1
愛知医科大学病院	愛知県	1
東京大学医学部附属病院	東京都	3
聖路加国際病院	東京都	1
就職小計		83
（進学）		
熊本大学看護教諭特別別科	熊本県	1
進学小計		1

放射線技術科学専攻（卒業生42名）		
（就職）		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	2
熊本整形外科病院	熊本県	2
熊本赤十字病院	熊本県	1
整形外科井上病院	熊本県	1
上天草総合病院	熊本県	1
公立多良木病院	熊本県	1
植木町国民健康保険植木病院	熊本県	1
天草地域医療センター	熊本県	1
菊池郡市医師会立病院	熊本県	1
公立玉名中央病院	熊本県	1
飯塚病院	福岡県	2
福岡記念病院	福岡県	2
新古賀病院	福岡県	2
戸畑共立病院	福岡県	1
済生会大牟田病院	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
田主丸中央病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	2
大牟田天領病院	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	2
阿久根市民病院	鹿児島県	4
南風病院	鹿児島県	1
広島大学病院	広島県	1
京都大学医学部附属病院	京都府	1
東邦大学医療センター大森病院	東京都	1
株式会社日立メディコ	東京都	1
就職小計		37
（進学）		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	5
進学小計		5

検査技術科学専攻（卒業生34名）		
（就職）		
済生会熊本病院	熊本県	2
熊本赤十字病院	熊本県	2
八代総合病院	熊本県	2
天草地域医療センター	熊本県	2
ソフィアレディースクリニック水道町	熊本県	1
熊本医師会検査センター	熊本県	1
高木病院	福岡県	3
国立病院機構九州ブロック	福岡県	2
新小文字病院	福岡県	1
九州厚生年金病院	福岡県	1
福岡メディカルセンター	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
佐世保市職員	長崎県	2
長崎大学病院	長崎県	1
宮崎県職員	宮崎県	2
宮崎善仁会病院	宮崎県	1
阿久根市民病院	鹿児島県	1
今給黎総合病院	鹿児島県	1
梅ヶ丘産婦人科	東京都	1
就職小計		28
（進学）		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	3
熊本大学大学院生命科学研究部	熊本県	1
九州大学大学院医学系学府	福岡県	1
進学小計		5

保健学科教員紹介

(平成22年9月16日現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：前田ひとみ 森田敏子
 講師：木子莉瑛 永田まなみ
 助教：有松 操 南家貴美代

【看護教育学講座】

教授：花田妙子
 准教授：角田俊治
 助教：福山美季

【臨床看護学講座】

教授：木原信市 宇佐美しおり 國府浩子
 准教授：田中紀美子 谷口まり子
 助教：梅木彰子 終中恵子 村上美華 白川裕一

【母子看護学講座】

教授：宮里邦子 山内葉月
 准教授：坂梨京子
 講師：寺岡祥子
 助教：生田まちよ 千場直美 吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田公代 西阪和子 東 清巳
 准教授：永田千鶴
 助教：石原千晴 松本佳代

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学講座】

教授：桂川茂彦 富吉勝美 白石順二
 准教授：阿部 誠 檜垣 強
 助教：船間芳憲 米田哲也

【医用画像学講座】

教授：荒木不次男 伊藤茂樹 富口静二 佛坂博正
 村上龍次
 准教授：島村正道
 助教：肥合康弘

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：二科安三 羽山富雄 柳沼裕二 吉永一也
 講師：伊藤雅浩
 助教：橋本弘司

【生体情報解析学講座】

教授：棚瀬純男 乾 誠治 原田幸一 三森龍之
 准教授：石井俊徳 奥宮敏可
 助教：熊谷エツ子 森 信子

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号 熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものと

する。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算

- 三 会則の制定及び改廃
- 四 役員を選出
- 五 顧問の推挙
- 六 その他の必要と認める事項

- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。
- 附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
 - 2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
 - 3 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
 - 4 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
 - 5 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
 - 6 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
 - 7 本細則の改正は、同窓会総会で行う。
- 附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

平成22-23年度同窓会役員

- 名誉会長：木原 信市（熊本大学大学院保健学教育部長）
- 会 長：宮里 邦子（熊本大学医学部保健学科看護学専攻）
- 副 会 長：和田 博文（済生会熊本病院中央放射線部）
前田 浩（熊本市立熊本市民病院中央検査部）
- 理 事：
- （看護） 右田香魚子（熊大医学部附属病院） 吉里孝子（熊大医学部附属病院） 岩本幸代（N T T西日本九州病院） 村上順子（済々黌高等学校） 島田那美（熊本市北保健福祉センター） 田中紀美子（熊大保健学科）
- （放射） 勝田昇（熊大医学部附属病院） 荒木不次男（熊大保健学科） 下東吉信（熊本放射線外科）
- （検査） 増永純夫（熊本中央病院） 山下昭一郎（熊大医学部附属病院） 熊谷エツ子（熊大保健学科）
- 幹 事：
- （看護） 木子莉瑛（熊大保健学科） 千場直美（熊大保健学科） 亀永真帆（熊大保健学科看護学専攻）
- （放射） 肥合康弘（熊大保健学科） 井芹新乃（熊大保健学科放射線技術科学専攻）
- （検査） 春田昭一（済生会熊本病院健診センター） 中村直子（熊本大学生命資源研究・支援センター）
- 会 計：船間芳憲（熊大保健学科） 福山美季（熊大保健学科）
- 監 事：尾山タカ子（熊大保健学科元教員） 東絹子（熊大医学部附属病院）

編集後記

地球環境がどうなっているのかと心配になるくらい、酷暑が続きました。厳しい夏を皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。今後、九州は亜熱帯域になり、四季折々の楽しみ方が変わる可能性もあるかもしれません。毎年、私たちの保健学科同窓会総会は厳しい暑さの時期に開催されます。役員一同、どれくらいの出席が得られるかと開催時間まで心配でした。今年度も100名をこえる出席者が得られ、安堵いたしました。感謝、感謝です。

今年の特別講演は18歳という若さで心肺停止をきたし、蘇生はできたもののその後高次脳機能障害を起こしてしまった「一ノ瀬たけし様」の活動紹介でした。ご本人の苦しさは私たちには計り知れないものだったのであることがお父上のご講演から推察できました。私たちの前で披露して下さる歌の一曲一曲に、プロの歌手とはひと味違う「響き」があり、感動いたしました。的確に詩（ことば）を読み込んで丁寧に歌ってくださっているのが私たちに伝わってくるのです。地に足をつけて頑張っている一ノ瀬たけしさんの姿は、私たちにも生きる力を与えてくれました。「希」を失わず今にとどまり、日々を頑張っていけば可能性が拓けてくるということでしょう。今年もまた、同窓会の特別講演から人としての生き方を教えられました。これからも会員の皆様の心に届く特別講演を企画していきたいと思います。同窓会総会に皆様のお越しをお待ち致しております。

保健学科同窓会役員 田中紀美子 木子莉瑛 千場直美